

## 春中スタンダード（身だしなみ規定）

ここに記されている内容を参考にして、身だしなみを整えましょう。

### 【頭髪・男女共通】

- 整髪料の使用、染色・脱色は不可。跳ね毛を防ぐものは、学校ではなく家で使用する。
- 前髪（目に入らない）→目にかかったらピンでとめる。
- 後髪（襟につかない）→襟についたら頭の後ろでしばる。
- ピン・ゴムの色は地味なもの、ピンの数は必要最小限とする。  
※パーマは不可。ストレートパーマは要相談。

### 【服装】

- 詰襟学生服上下 or 紺セーラー服 or ブレザー  
※暑いときは襟シャツ or 白セーラー服 or ポロシャツも可。  
※詰襟・セーラー・ブレザーどのアイテムを組み合わせてもよいです。  
※着こなしについては、別紙【制服ガイド～着こなし方・選び方～】を確認すること。  
※衣替えの時期は指定しないが、時・場所・場合（TPO）、気候、健康状態に応じた着方をすること。
- 下着は白・黒・紺・茶・グレー・ベージュなどの目立たない色で無地のものを着用する。体操服も可。
- ベルトは黒・茶のみ。金具は派手でないもの  
※セーラー服のベルトは従来のもので可。また、外に出さないように着用する。
- スカートの丈は、膝全体が隠れる長さ。
- 袖ボタンはすべて留める

### 【名札・校章】

- 名札は青の台布に札を縫いつける。また、常に名前が分かる状態にいること。

### 【靴・上履き・靴下】

- 原則、白もしくは黒を基調とした運動靴。  
※ひも・靴底・靴底の横も靴と同じ色とする。ワンポイント（メーカーのロゴ）のみ色が入っていてもよい。
- ただし、式・文化的な行事・校外での学習や活動があるとき以外の日は、運動靴であれば色は問わない。宿泊行事についてはその都度判断する。
- 雨の日長靴も可だが、その後の天気によっては外で体育の授業があるため、気を付けること
- 靴下は白もしくは黒の無地。※イラストや模様などはなし。メーカー名のワンポイントはOK。
- 上履き（スリッパ）・体育館シューズは学校指定のもの。
- スリッパ・体育館シューズには、かかとの部分に記名をする。

### 【カバン】

- 学校指定のリュックを使用する。
- 上記のリュックに入りきれない場合は補助バッグを認める。ただし、あくまでも補助として使用する。ロッカーに入る大きさのものを使用する。
- 教科書などの重いものは、リュックに入れるのが望ましい。
- 補助バッグの色→白、黒、紺、茶、緑、青、ベージュなどで地味な色  
柄→無地・ワンポイント・ストライプ・チェックなど
- リュック・補助バッグともに、キーホルダーを一つまでつけてもよい。（学生証程度の大きさ）

## 【防寒具】

- 上着→華美でないものを登下校中に着てもよい。(コートやジャージなど)  
※2学期終業式・3学期始業式は、儀式的行事ではあるが、体育館を閉めきっても非常に冷えるため、防寒着(コート・ジャージ問わない)の着用可。
- 春中ジャージや華美でない(白・黒・紺・茶・グレー・ベージュなど)無地のトレーナーなど(メーカー名のワンポイントは可)を、セーラーの上から着用したり、学ランやジャケットを脱いで着用したりしてもよい。
- 手袋→色・形・材質指定なし
- マフラー→白・黒・紺・茶・グレー・ベージュなどの無地で地味色のもの。  
→長すぎるものは不可。
- ネックウォーマー・スヌードについては、マフラーのきまりに準ずる。
- ストッキング・タイツの着用を認める。(黒の無地)
- 使い捨てカイロは使用してもよいが、必ず記名をし、家で処分する。

## 【持ち物】

- 不要物は持って来ない。(アクセサリ・ゲームなど、学習活動に必要なもの)
- 携帯電話も不要物とみなす。  
※やむを得ない事情がある場合は保護者から担任に申し出て、校内では、担任に預ける
- 高価なものは持ってこない。(筆記用具やキーホルダー)
- ミサンガなどの装飾品も身に着けない。
- 飲みものは、スポーツドリンクも可。基本的には水筒に入れて持ってくる。  
※ペットボトルで持ってくる場合は、必ず記名されたペットボトルホルダーに入れること。

## 【約束事】

- 机の横には給食袋以外、原則、荷物を置かない。
- 荷物はすべてロッカーに入れる。  
※教科書類を個人BOX・ロッカー・机の中に置いて行ってもよいが、すべての自分の荷物をロッカーに収納できない場合は、必要に応じて持ち帰る。
- ※私物を学校に置いていく場合は、自己責任とする。紛失の不安がある場合は適宜持ち帰ること。
- 他の人のものには触らない。
- 基本的に他学年のフロアには入らない。
- 胸ポケットに必要以上に物を入れない。
- 自動販売機は、別紙『自動販売機利用のルール』に沿って利用すること。

## 【その他】

- 夏場、エアコンの風で冷える場合などは、春中ジャージを用いて臨機応変に体温調整をしてよい。  
また、冬場も中に着こむだけでなく、制服の上から春中ジャージを着るなど、臨機応変に体温調整をしてよい。
- この「春中スタンダード」は、校内でのトラブルを防ぐためや社会で通用する力を身に着けるために制定しており、生徒会を中心として生徒と教員が随時協議して決定していくものである。